

2015年5月3日 礼拝メッセージ

聖書：第二サムエル記 12章 1～15a 節

説教：あなたがその男です。

あらすじ

暑い夏の屋下がりにダビデが涼しい風に当たるために屋上を散歩していた時のことです。遠くに、非常に美しい女性が裸になってからだを洗っているのを見失います。調べさせると、ダビデの部下ウリヤの妻バテ・シェバでした。ウリヤは戦場にでかけています。ダビデは早速バテ・シェバを呼び出します。それから間もなくしてバテ・シェバが妊娠したことが知らされました。このことがイスラエルに知れ渡れば大スキャンダルとなります。すぐにもみ消さなければなりません。お腹の子どもは夫のウリヤのものであるかのようにアリバイ工作を試みるのですが失敗してしまいます。そこでダビデはウリヤを殺すことにします。最も厳しい戦いの最前線に送り、ウリヤが戦っているとき味方は退いて、ウリヤが戦死するように仕向けます。そうやってウリヤは敵であるアモン人の剣に倒れます。これが前回までのあらすじでした。

いったい神はこのダビデをどのように扱っていくのか。今日はその続きを見て参ります。

1 神はナタンを送る

1) 「そんな男は死刑だ」

主は預言者ナタンをを送り、ダビデの前で一つのたとえ話をします。ある町に富んでいる人と貧しい人がいた。富んでいる人は多くの家畜を持っていたが、貧しい人のところには自分のお金で買ってきた小さな雌の小羊

が一頭いただけ。貧しい人は、その羊を非常にかわいがり、まるで自分の娘のようにして育てていた。ところがある日、富んでいる人の所へ旅人が来たので、料理をこしらえてもてなすこととなります。富んでいる人は、自分の家畜が沢山あるのにそれを惜しみ、貧しい人の小羊を取り上げてそれを料理した。そんなたとえ話です。

ダビデはこれを聞いて非常に腹を立てました。5, 6 節。「主は生きておられる。そんなことをした男は死刑だ。その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の小羊を四倍にして償わなければならない。」

ダビデだけでなく、誰もがこんな話を聞かされたらダビデのように激しく怒るはずですよ。それはよいとして、問題はその先にあります。

2) 「あなたがその男です」

ナタンはたとえ話を通してダビデが自分の罪に気がつくようにと仕掛けを張り巡らしています。どんな仕掛けか。

ダビデはたとえ話の中の富んだ人に相当します。彼がまだ若かった頃は、ほかの兄弟から見下されるほどの小さな存在に過ぎませんでした。主はこのダビデを選び、イスラエルの王としていきます。何も持たなかったダビデが、いまや人もうらやむほどのものを主からいただいていた。

一方、ウリヤはどうであったか。彼はヘテ人と呼ばれる外国人です。イスラエルに忠誠を尽くしイスラエル兵として戦っていた人

です。七十年前の戦争の時、当時アメリカに住んでいたいわゆる日系アメリカ人の中にはアメリカ軍の兵士として戦った人たちがいたと言われています。すぐに想像できることですが、彼らは外の敵のほかに、内なる敵、つまり日系人たちに対する強い偏見とも闘わなければなりません。そのため、彼らは人一倍勇敢に戦って、アメリカへの忠誠を示したと言われていました。ウリヤもおそらくそのような立場におかれていたと思います。外国人というハンディを負っているウリヤは、イスラエルで生きていくために一生懸命働くしかありません。働くだけでなく、信仰という面においてもイスラエル人よりもっと忠実な信仰者として歩もうとしました。そうやって努力してきたウリヤは、少しずつ軍隊の中でも有能な戦士として認められ、イスラエル人の女性を妻バテ・シェバと結婚することもでき、小さな家庭を築くことができました。ところがダビデは、このウリヤ妻バテ・シェバを取り上げてしまいます。彼はたとえ話の貧しい人に相当します。

ナタンの語るとえ話を聞いていたダビデは、「そんなことをした男は死刑だ」と叫びました。自分は神の正しさを知っており、神の前を正しく歩む者である、自分はその男に死刑を宣告する資格がある。ダビデはそう思い込んでいます。ところがナタンはこう言うのです。「あなたがその男です。」

2 ダビデ

1) イスラエルの王が罪を告白する

ダビデはどうしたか。イスラエルの王としての権力は絶大です。「いや、そうではない」と罪を認めず、ナタンを死刑にすることさえできます。実際に、旧約の預言者たちはその

ようにして殺されていきました。

あるいは、自分の罪をできるだけ軽く見せるためにこう言うのでしょうか。「確かにそういうこともあったが、バテ・シェバが私を誘惑したのだ。私の責任ではない。ナタンの言うことは筋違いだ。」これまで何度もどこかで聞いてきた言い訳です。いや、これはほかの人の話ではない。自分でも同じようなことをしてきました。ダビデはどうしたか。13節。「私は主に対して罪を犯した。」このように告白します。

このことばから二つのことを見て取ることができると思います。一つは、イスラエルの王であるダビデが、罪の告白した事実です。高い地位に登れば登るほどプライドがあります。自分の地位や名誉が傷つくことを恐れるようになります。守りの姿勢にはいりません。極端な場合、今の時代ならナタンを名誉毀損で訴え、謝罪と損害賠償を請求することも起こりえます。ダビデが、自分のプライドを捨て、地位や名誉のことをいっさい考えず、ただ自分の罪を告白しなければならぬと迫られたのはなぜでしょうか。

詩篇 51 篇に、このときのダビデの祈りが記されています。そのなかの 7 節にこうあります。「ヒソブをもって、私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。」ヒソブは、イスラエルではそこらあたりに生えている草です。イスラエルがエジプトから脱出するとき、ヒソブを羊の血にひたし門とかもいに塗りました。ダビデは、多くの財産を持っています。権力もあります。けれども自分の罪がきよめられなければ、絶対に幸せになれないと自覚しています。そして詩篇 51 篇を最

後まで読めばわかるのですが、自分の罪がきよめられなければイスラエルは幸せになることができないことも自覚するのです。自分の罪のことがほかの人をも苦しめていくことを感じています。

でも、どうやったら罪がきよめられるのか。世の人たちは、努力や修行、自己研鑽と呼ばれる方法に熱心です。でもきよくなったという実感を持つことができず、多くの人が悩んでいるのも事実です。

ダビデはどうでしょうか。どんなことをしても、自分ではきよめることができないと言っています。主に洗っていただくしかない、そう感じています。どんなにお金があろうとも、どんなに高い地位にあろうとも、どんなにすばらしい名誉をもっていても、何の役にも立たない。罪がきよめられること、それは人間にとって最も切実な要求なのです。ダビデの口を通してそのことが告白されました。それが一つ目です。

2) 主に対して罪を犯した

注目すべき二つ目のこと。世の人々ならこんな場合、どんな謝罪をするでしょう。「私はウリヤに対して罪を犯した。私はバテ・シェバに対して罪を犯した。私はイスラエルの人々をだまして、罪を犯した。迷惑をかけたしまった皆さんに対し、申し訳ありませんでした。」だいたいこんな謝罪会見となるでしょう。しかし、ダビデは誰に対して罪を犯したと言っているでしょう。「主に対して」と言っています。もちろん、迷惑をかけた方々には誠実に謝る必要があります。けれども忘れてはならないのは、私たちは誰に対して罪を犯したのか。そのことのように思います。罪とは、ほかの人に迷惑をかけた、とい

うような軽い話ではありません。もっと深刻なのです。私たちは主に対して罪を犯してしまった、その恐ろしさをどこまで自覚していたのだろうか、あらためて思われます。

ダビデはウリヤを殺し、ウリヤの妻を奪って自分の妻としました。突き詰めれば何が問題だったのでしょうか。ダビデが自分の口で告白しています。「主は生きておられる。そんなことをした男は死刑だ。その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから。」自分が主からあわれまれている者であることをすっかり忘れ、貧しい人をあわれもうとしなかった。それがダビデが犯した罪のもっとも中心にあるものでした。

3 あわれみの主

皮肉なことですが、ダビデの告白から主とはどのような方であるかが浮き上がって来ます。貧しい者をあわれまないのなら、その男は死刑にすべきである。ダビデはそのように叫びました。皮肉なことですが、ダビデは自分の口で非常に大切なことを言っていたのです。どんな大切なことか。主は貧しい者を必ずあわれむ、ダビデは自分の口でそう言ったのです。わずかの財産でたった一頭の小さな小羊を買ってきて、わが子同然のようにしてかわいがり、育てようとする、そのような人を主は決して見過ごすことはない。必ずあわれんでかえりみてくださる。それが主であると言っています。

そのあわれみはどこまで及んだのでしょうか。ダビデが言うように罪を犯した者は死ななければなりません。しかし主は、ダビデの罪を見過ごし、ダビデは死なずに済みました。それは日本文化にある、「水に流す」ということでしょうか。そうではありません。

ダビデの罪は残るのです。残った以上、どこかで必ずさばかれる必要があります。でなければ、神の正しさがそこなわれたままになるからです。主がダビデの罪を見過ごしたのであるなら、その罪はだれかが代わりに受けてさばかれる必要があります。誰ですか。ダビデの子孫として来られた神のひとり子、イエス・キリストがダビデの罪を背負います。

ダビデはウリヤをあわれみまず、主に対して大きな罪を犯します。しかし、「私は主に対して罪を犯した」と告白するダビデを、主はあわれんでくださり、その罪を洗って白くしてくださる。私たちにも同じことをしてください。

そこに私たちの本当のいのちがあることを覚えたいと願います。